川崎町議会定例会会議録

令和4年6月9日（第3号）

○出席議員（13名）

1番	佐藤清隆君	2番	遠藤雅信君
3番	佐藤昭光君	4番	高橋義則君
5番	沼田長一君	6番	大沼大名君
7番	神崎安弘君	8番	眞幡善次君
9番	的場要君	10番	生駒純一君
11番	佐藤新一郎君	12番	遠藤美津子君
13番	眞壁範幸君		

○欠席議員（なし）

○説明のため出席した者

町長	小山修作君	副町長	奥山隆明君
総務課長	渡邊輝昭君	農林課長	大友聡君
建設水道課長	阿部大樹君	町民生活課長	高橋和也君
教育長	相原稔彦君	学務課長	佐藤健君
生涯学習課長	小原邦明君	代表監査委員	大松敏二君

○事務局職員出席者

事務局長	佐藤文典君	書記	佐藤由弥歌君
書記	佐藤明尚君		

○議事日程

令和4年川崎町議会定例会6月会議議事日程（第3日）

令和4年6月9日（木曜日）午前10時開議

日程第1. 会議録署名議員の指名

日程第2. 一般質問

○本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

午前10時00分 開議

開議の宣告

○議長（眞壁範幸君） 皆さん、おはようございます。

ただいまの出席議員は13名で、定足数に達しておりますので、これから本日の会議を開きます。

なお、携帯電話は電源を切るか、マナーモードへの設定をお願いします。

議事日程の報告

○議長（眞壁範幸君） 本日の議事は、あらかじめお配りしてある議事日程に従って進めます。

日程第1 会議録署名議員の指名

○議長（眞壁範幸君） 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第120条の規定により、議長において、

8番 眞 幡 善 次 君

9番 的 場 要 君

を指名します。

本日の会議の書記として、佐藤文典、佐藤由弥歌、佐藤明尚を選任します。

日程第2 一般質問

○議長（眞壁範幸君） 日程第2、一般質問を行います。

再質問に関しては、挙手の上、質問願います。挙手がなければ次の質問に移りますのでご了承

願います。

順番に発言を許します。

通告第4号、9番的場 要君。

【9番 的場 要君 登壇】

○議長（眞壁範幸君） 初めに、コンビニ交付サービスについて質問願います。

○9番（的場 要君） おはようございます。9番的場 要でございます。

ただいま議長より発言の許可をいただきましたので、通告に沿って質問をさせていただきます。

初めに、コンビニ交付サービスについて質問をいたします。

コンビニ交付は、マイナンバーカードを利用して市区町村が発行する証明書、住民票の写し、印鑑登録証明書などが全国のコンビニエンスストアなどのキオスク端末（マルチコピー機）から取得できるサービスです。

現在、宮城県内では仙台市をはじめとした12の市、柴田町など8つの町、合わせて20の自治体が導入をしています。また、今後導入を検討している自治体もあるようです。

人口減少が進んでも役場の業務量は大きく変わらないのではないのでしょうか。導入することで窓口対応の負担軽減やコロナ禍での接触対応の軽減、また、町民の皆さんの利便性向上につながるものと考えます。

コンビニ納入と同様に、いずれは導入するべき必要なシステムだと思います。導入経費、ランニングコストなど調査検討を始める時期に来ていると思いますが、いかがですか。

○議長（眞壁範幸君） 町長。

【町長 小山修作君 登壇】

○町長（小山修作君） コンビニ交付サービスについて、9番的場 要議員の質問にお答えします。

コンビニ交付サービスについて、導入経費、ランニングコストなど調査検討を始める時期に来ていると思うがいかがかとの質問を受け、改めてその経費などを確認しましたので回答させていただきます。

初めに、コンビニ交付サービスに係る導入経費であります。川崎町における導入経費は約1,000万円になると見込んでおります。

次に、ランニングコストですが、住基などの運用支援を行うシステム業者、マイナンバーカードを取り扱う事業者、そしてコンビニ事業者などに合わせて毎年約250万円支払うようになると

試算しております。

議員ご質問のとおり、コンビニ交付を導入することで町民の利便性向上につながると認識していますが、コンビニなどで証明書などの発行を受けるためにはマイナンバーカードが必要となります。川崎町におけるマイナンバーカードの取得割合は、5月15日現在で約4割という現状を踏まえたと、まずは、マイナンバーカードを持つ町民の方を増やすことが必要であると考えております。

今後、カードを取得する町民が増え、コンビニ納付の要望などその機運が高まった際には、ほかの市、町の利用状況などを検証しながら、導入の可能性について検討していきたいと思っておりますのでご理解をお願いいたします。

○議長（眞壁範幸君） 再質問の場合、挙手願います。的場 要君。

○9番（的場 要君） 早速、いろいろと調べていただいてありがとうございます。

この答弁の中にもあったように、マイナンバーカードがまず必要だということなんです。このサービスを導入した自治体を見ますと、マイナンバーカードの取得率が上がっているということが挙げられます。マイナンバーカードがないとこのサービスが受けられませんので、利用するためにマイナンバーカードを取得するという考え方もございます。そして、実はこれは大分前からサービスのそういう導入が国のほうからうたわれていまして、令和2年までに財政措置をするというものがありませんでした。しかし、令和2年までで導入する自治体が少なく、これが令和4年までに延長になっております。3年間国からの財政支援があり、総事業費の2分の1を特交措置をするというものであります。

しかしながら、それでもまだ導入が進んでいない、いわゆる川崎町のような小規模自治体が多くあるということなんです。ですので、これはあくまでも予想ですが、令和4年度内の導入がされなくても、引き続き何らかの支援があるのではないかと考えております。

こういった、国からの支援に対する情報を常にキャッチしていかなくてはならないなというふうに考えております。

令和元年12月に閣議決定をしたデジタル・ガバメント実行計画、これが行政のデジタル化の徹底、そして政府ネットワーク環境の再構築、地方公共団体のデジタル化、この3本柱で進めていますので、コンビニ交付、こういったクラウドを使ったサービスが地方自治体で拡充をされないという国の政策も進まないということでもあります。まずは情報をキャッチすることが必要だと思います。いかがでしょうか。

○議長（眞壁範幸君） 町民生活課長。

○町民生活課長（高橋和也君） 的場議員にお答えいたします。

情報の収集が必要だというご質問でございました。おっしゃるとおり、情報を収集しながら導入に向けて様々な面においてマイナンバーカードの取得、それからコンビニ交付の導入、これについて検討しなければならないと認識しております。今後も引き続き情報の収集を進めていきたいと考えております。

○議長（眞壁範幸君） 的場 要君。

○9番（的場 要君） この質問をするに当たっているいろいろなタイミングがあったんですけども、仙台から移住されてきた方のお話を伺ったときがありました。その方はコンビニ交付ができるのが当たり前だと感じていたようです。川崎町に来て、コンビニ交付がなくてちょっとびっくりしたというお話でありました。その方もこういうサービスを受けるためにマイナンバーカードを取得したというお話だったんですけども、やはり人口減少が進む中で移住定住を促進している川崎町にとって、若い世代の人に来てもらうとき、働き世代、共働きということであれば、なかなか役場が開いている時間には来られない。川崎町では延長窓口をやっていますので、そのときに来ていただければ取得は可能なんですけれども、なかなか早い時間に町に帰ってくるのができないといった場合、やはりコンビニでは全国どこのコンビニでも11時までこの交付を受けることができるというサービスでありますので、職場の近くで交付を受けることができる、サービスを受けることができるということでもあります。

こういった利便性の向上、やはり新しい事業をやるときは費用対効果というものをよく考えますが、財政的な部分だけではなくて、広い意味で川崎町にとって有利なサービスになるのではないかとこのように思います。この辺の判断というのは、タイミングを含めて町長に行っていただかなくてはならないと思います。いろんな意味を含めて、将来の川崎のために必要なものだと思いますので、ぜひ町長、この辺の判断を、いつなのかというところをしっかりと考えていただきたいと思います。いかがでしょうか。

○議長（眞壁範幸君） 町長。

○町長（小山修作君） 的場議員さんの質問にお答えします。

様々なことを的確に導入していく必要があると思います。そういった中で、今回はマイナンバーカードを普及するために専門のというか担当の職員を配置して、今、いろんな形でマイナンバーカードの普及を進めています。以前、沼田議員さんからも税金の申告のときにも終わった人達にいろいろ働きかけたらいいんじゃないかということで、私はそこまではなったんですけども、今年はそれもやってみました。やはり沼田議員さんのおっしゃるように、そういった成果

も出ているようであります。

また、延長窓口もしています。延長窓口を週に1日やることによって、年間の残業の手当は年間50万円ぐらいです。1年間2人を毎週火曜日2時間張りつけて年間50万円であります。そういったこともありますし、あと富岡支所もございます。そういった中でこれもやっていくべきなのか、実際、年間、印鑑証明や住民票など7,500通ぐらい町では出しているようなので、1日に換算しますと大体31通です。31通のうち、このコンビニでやっているほかの町を調べますと5%くらい。そうしますと1日1.5通。1.5通のためにこのくらいのお金を出していくべきなのかも含めて、やはり的場議員がおっしゃるように、いろんな人たちのニーズに合わせていかなければなりませんから、改めて今回いろんな試算や、導入した町はコロナ交付金などを使ってやっているようでありますから、町が初期投資をするといってもいろんな交付金があるようです。そういったことも含めて考えていかなければなりません。今、いつということははっきり申し上げられませんが、延長窓口とか富岡支所の絡みもございますので、少し検討する時間をいただきたいと思えます。

○議長（眞壁範幸君） 次に、消防設備の維持管理について質問願います。

○9番（的場 要君） 消防設備の維持管理について質問をさせていただきます。

先日の火災現場で、地元の方が初期消火で使用した消火栓格納箱のホースが経年劣化のために折り目から複数か所の水漏れが発生していました。その後、消防団のホースに交換し消防活動を行いました。町内に設置されている消火栓格納箱のホースも同様の状態であると推測されます。頻繁に使うものではありませんが、有事の際の初期消火には欠かせないものです。改めて設置場所や状態を調査する必要があると考えます。あわせて、維持管理の観点から撤去する方向も検討する必要があるのではないのでしょうか。

また、消防団のポンプ小屋に設置されているホース乾燥塔ですが、活動後にホースをつるすロープが切れ、落下してしまっただけがありました。幸い大きなけがもありませんでしたが、設置年数なども含め、こちらも調査する必要があると考えますがいかがですか。

○議長（眞壁範幸君） 町長。

○町長（小山修作君） 的場議員の質問にお答えします。

消防設備の維持管理についてであります。去る5月11日に川内天神前地区で発生した火災におきまして、佐藤新一郎議員をはじめ、ご近所の方々に初期消火を行っていただき、被害を最小限に止めることができましたこと、改めて御礼を申し上げます。

一方、この消火活動におきまして、的場議員のご指摘のとおり、現場付近のホース格納箱に備

え付けてあるホースから水漏れが確認され、初期消火に支障が生じていたことが浮き彫りになったところであります。現在、消防ホース格納箱は町内全域で118基設置されており、この件につきましては、いち早く消防団の幹部会議でも協議され、分団ごとに現状を把握した上で、今後の必要性や管理方法について、改めて幹部会議で協議することとしたようです。

ご承知のとおり、消防団員の皆さんは日頃から消火設備や施設の維持管理、点検についてきめ細かな対応をしていただいておりますが、今回の場議員が指摘されたホース乾燥柱は、団員によっては状況を確認することが非常に難しいものであります。

以上のことを踏まえ、今後専門業者による調査を実施し、その結果について消防団員や常備消防と協議、調整を行いながら必要な措置を講じてまいりたいと思いますので、ご理解をお願いいたします。

○議長（眞壁範幸君） 的場 要君。

○9番（的場 要君） この質問をさせていただくために、総務課に相談をさせていただきました。そのときにやっぱり緊急性が高いといいますか、順番がちょっと逆になりますが、ロープの件については、早速総務課長、担当者の方にすぐに対応いただいて、業者に調査を依頼して、川崎町に今ホース乾燥柱が23本設置してありますが、そのうちの13本は要更新だということですぐに対応していただきました。本当に感謝を申し上げます。切れたところに私も実はいたんですが、今宿の火災で、火災現場と水利が非常に遠くて、ホースを20本近く使ったわけであります。自動車班の乾燥柱には4本ロープがついているんですけども、1本にかける本数が多くて、やっぱりその重さも影響したとは思いますが、ロープが古くて、一番上につったところで切れてしまって、切れた拍子に後ろに飛ばされたために落下しても誰も当たらずにけががなかったということでございます。

このロープについて、雨ざらしで置いてありますので、しかも頻繁に使うものではない。ロープの状態がどうかということは、消防団員でも素人ですからその状態を的確に確認することはできないということであります。ですから、こういった部分というのは専門業者の方に判断をいただいて、しかるべきときに更新をするということが必要なんだろうというふうに思います。

そして、格納箱のほうですが、まさにこの答弁にあったように、地元佐藤新一郎議員が先頭になって消火活動をしておりましたが、消防のホースというのはゴム引きになっています。内側が折り目どおりに穴が空きまして、ホースの両脇からもう本当に見事なほど水が漏れていたという状況であります。多分、設置してから初めて使ったのだらう、そして設置をしたのも、もう10年20年ではないかなというぐらい古い物なんだろうというふうに思います。見た目はもう新品です。

しかし使っていないと経年劣化でそういうふうな状態になってしまう。多分、川崎町内のホース格納箱もほとんどそういう状態だろうというふうに思っております。

設置した当時は、消火栓の近くに必要だろうということで、どんどん設置が進められたと思いますが、その後の更新はほとんどされていないのかなというふうに思いました。やはり必要などころにはまた更新をして置いておくことが大切であると思えますし、そしてまた、地区によっては若い世代がいない、そして地元でも高齢者の方が多くて、いざというときに使える人がいないといった場合には、やはり撤去する方向も必要だろうと思えます。いかがでしょうか。

○議長（眞壁範幸君） 総務課長。

○総務課長（渡邊輝昭君） 的場議員のご質問にお答えさせていただきたいと思えます。

ホースの格納箱の撤去の選択肢もあるのではないかとのご質問でございます。先ほど町長からも答弁がありましたとおり、この件につきましては、各消防団と調整あるいは協議を行って、その選択も視野に協議を行い、結果を出していきたいと考えておりますのでご理解をお願いします。

○議長（眞壁範幸君） 的場 要君。

○9番（的場 要君） 近くでいいますと、大河原町では既に格納箱を撤去する方針で進められているというお話を聞きました。そして、全国各地いろんなところで同じようにランニングコスト、更新費用がかかりますので、撤去する方向のほうが多いということでございます。更新するにしても結構な費用がかかるわけです。そして設置台数も比較的多いということでもあります。各町内の消防団のポンプ小屋の近くに大体あるんですけども、そのポンプ小屋の前にも格納箱があるところが数か所あります。消防団のホースであれば、ある程度更新されている状態ですので、僕は逆に消防団のポンプ小屋の前には必要ないのかなというふうにも思っています。ポンプ小屋で燃料の盗難とか様々な件があって、ポンプ小屋に鍵をかけている状態ではありますが、区長さんをはじめとして近隣の方と情報を共有して、鍵はここに置いてありますので、いざという時はこのホースを使ってくださいですか、そういった連携が取れば、格納箱というのはポンプ小屋の前にはいらぬというふうに僕も思いました。

消防ホースの格納箱の意味、目的については、消防署そして消防団が来る前に地元の方が初期消火で使えるために設置をしてあるというのが目的のようであります。しかし、消防団のOBですとか経験者がいれば使えますけれども、初めての方ではとっても難しいものかなというふうにも思っております。いろんな面で必要などころにはしっかり更新をして設置する、そして地元の事情もしっかり伺って相談をしながら、撤去をするという方向も今後、財政的な面も考えれば間

違いなく必要なことなんだろうというふうに思います。

消防設備は、しょっちゅう使うものではありませんが、いざというときに使えないと何の意味もないので、なかなか難しいところではあると思いますけれども、だからこそ、緊急的にと言いますか、ずっと必要ないところにはしっかり判断をして、そこは削っていただくというところも大切なのではないかと思います。いかがでしょうか。

○議長（眞壁範幸君） 町長。

○町長（小山修作君） 的場議員の質問にお答えします。

今回、川内であった件については、たまたま新一郎議員さんが消防団長の経験もあって、どんなことも今まで経験されてきたので対応できますが、的場議員がおっしゃるように、普通の方々はそこを、そのものを触ったりすることはできませんし、我々も消防団のときは消防団ではないといろんな機材に触っては駄目なんだよ、とても危険なものだというようなことでしたから、とにかくあの格納箱には2本しか入っていませんから、2本で届く距離というのは限られてしまうので、あてにしてもやはりいざというとき使えないのでは何の意味もないので、やっぱりその状況に応じて、ポンプ置場に行けばまとまった数があって、それはいつでも使えるんだというほうが逆にいいのかもしれないので、そういったことを含めながら、総務課長が団長さんたちと共にいろんな話をすると思うので、そのときは議会でこういうことがあったということをしかりとお伝えして判断していきたいと思います。

○議長（眞壁範幸君） 的場 要君。

○9番（的場 要君） ぜひそういった方向でお願いしたいと思います。

そして今回格納箱の件について担当者にお話を聞いたときに、担当者も実際今、何基設置してあるか分からないということでした。その後、しっかり調べていただいたんですけども、やはり同じ方がずっとそこにいるわけではないです。ですので、ロープもそうです。いつ設置したのか、そして格納箱の更新をいつしたのか、こういったものについては、しっかりとデータで管理をしていくということが必要だと思います。データが残っていれば担当者が代わってもしっかりとそれを引き継いでいけるということでもありますので、こういった情報は、しっかりデータで管理していくということが必要だと思います。いかがでしょうか。

○議長（眞壁範幸君） 町長。

○町長（小山修作君） そういったデータでしっかりと管理しなければいけませんし、例えば私もロープのことについては本砂金の消防団で切れたことがありました。ロープなんていうものは、私からすれば業者に点検してもらいより、何年に一遍全部取り替えてしまうというようなことの

ほうがいいので、業者に見てもらいよりも何年たったら全部交換だというような形で、そういったことも含めて検討させてください。

○議長（眞壁範幸君） これでの場 要君の一般質問を終わります。

○議長（眞壁範幸君） 通告第5号、6番大沼大名君。

【6番 大沼大名君 登壇】

○議長（眞壁範幸君） 初めに、農業振興策について質問願います。

○6番（大沼大名君） 6番大沼大名です。ただいま議長より発言の許しがありましたので、質問に移らせていただきます。

まず初めに、農業振興について、町の基幹産業である農業の担い手不足が深刻化している状況です。新規就農者には補助制度がありますが、農家の後継ぎは利用できない制度になっています。そこで、以下の点についてお伺いします。

1点目、当町における農業従事者数の推移はどのようになっていますか。

2点目、新規就農者に対する支援策と実績はどのようになっていますか。

3点目、農家の後継ぎでも利用できる補助制度はありますか、また、町として何らかの対策を講じる考えがありますか、お伺いします。

○議長（眞壁範幸君） 町長。

【町長 小山修作君 登壇】

○町長（小山修作君） 6番大沼大名議員の質問にお答えします。

1点目の川崎町における農業従事者数の推移はどの質問でありますが、農林業や農山村の現状と変化を捉え、きめ細かな農林行政を推進するために、農林水産省が5年ごとに農林業を営んでいる農家や法人などを対象に調査を実施しており、この調査結果は農林業センサスとして公表されております。ご質問の農業従事者数を農林業センサスにおける主要な販売農家の農業就業者数で申し上げますと、2010年では968人、2015年では735人、2020年では513人となっています。過去10年間で比較いたしますと、減少率は47%の減となっており、455人の減少という状況にあります。

2点目の新規就農者に対する支援策と実績はにつきましては、新規就農者が利用できる主な支援策としては、次の時代を担う農業者となることを目指す人に対して、就農直後の経営確立を支援する資金を5年以内で交付する国庫補助事業の農業次世代人材投資事業、これに1年に120万

円から150万円を最長5年間支援する制度でございます。

また、経営の不安定な就農して最初の段階における設備投資に係る経費に対して補助金を交付する、こちらは町独自の政策ですが、新規就農者営農定着促進事業、経費の2分の1以内上限100万円を支援するという制度がございます。

また、新規就農者向けの無利子資金による営農に必要な機械や施設の整備などを支援する日本政策金融公庫が取り扱っております青年等就農資金などがございます。

活用実績につきましては、農業次世代人材投資事業は平成24年度から令和3年度までの10年間において14件、14人の方が利用して補助金額は8,087万5,000円となっております。

また、新規就農者営農定着促進事業、町独自の制度でございますが、こちらは平成25年度から令和3年度までの期間において12件12人の人が利用して、補助金額は1,476万3,000円となっております。また、青年等就農資金は、令和元年度から令和3年度までの期間で利用件数が2件という状況です。

3点目の農家の後継ぎでも利用できる補助制度はあるのか、また、町として何らかの対策を講じる考えはとの質問であります。新規就農に対する支援策は、農業をスタートするために必要な設備投資などへの配慮から支援制度が創出されておりますが、農家の後継ぎを対象とした農業次世代人材投資資金のような補助制度はありません。

町といたしましても、昨年度からシルバー人材センターなどを利用して、ある程度の方々の草刈りなどに助成をしておりますが、実際にそういった新規就農に対するような補助はしておりません。これまで地域農業を支えてこられた農家の後継者を後押しできうる町独自の支援策の在り方を検討していかなければならないと思っております。これまで眞壁議長、神崎議員、高橋議員、様々な方々から、今、川崎町で農業やっている方々を支援する制度が必要なのではないか、新一郎議員などからもそういったものがなければ地域の農業を担える人がいなくなってしまうと再三述べてこられました。改めて、今回の農業に従事している人たちの数を見ますと愕然とするところでございます。町としてしっかりとしたそういった支援策を練っていかなければならないと感じております。

過疎に指定されて過疎債なども使えるとなりますと、そういったものを使いながら町独自の農家の後継者を後押しできる政策をつくっていかなければならないと思いますので、早速案を練って議会の皆さんに出せるように努力したいと思います。

○議長（眞壁範幸君） 再質問の場合、挙手願います。大沼大名君。

○6番（大沼大名君） 私も今、数字を聞いて改めて愕然としているところなんです、現状は

やはりかなり厳しい状況に農業は置かれていると、経済的にも社会的にもそういう厳しい状況になっていると思います。また、コロナ禍で米離れとか、何とか町独自でできなければ仙南地区で協力し合ってやっていくとか県の協力ももらいながら、やはり農業の再活性化を目指していかないと非常に人間的にも厳しい状況になってきていると思います。そこで、新規就農者に対する支援はいろいろあるんですけれども、なかなか四、五年たつとうまくいっていないような話も伺っています。そこでやはりこういった資金的な援助だけではなくて、いろんな栽培ノウハウとかあるいは運営ノウハウとか、そういったアドバイスの仕組みを作っていないと、せっかく就農してもうまくいなくて辞めてしまう危険もありますので、その辺どのように考えているかお伺いしたいと思います。

○議長（眞壁範幸君） 農林課長。

○農林課長（大友 聡君） 大沼議員のご質問にお答えします。

新規就農者に対する支援、お金ではなくて技術的な支援というご質問でございますが、平成29年度以降の新規就農者を対象といたしまして、宮城県大河原農業改良普及センター、日本政策金融公庫、宮城仙南農業協同組合、農業委員会そして農業技術指導員をメンバーとするサポートチームというものを編成してございます。具体的な内容でございますが、経営、技術、資金、農地の、この3つの切り口から各種相談にきめ細かに応じるとともに、対象者を年2回訪問し、意見交換を交わしながら指導、営農状況を把握しております。こちらの活動を引き続き継続いたしまして、いろいろとバックアップしていきたいと考えております。以上でございます。

○議長（眞壁範幸君） よろしいですか。

次に、児童生徒に対する自然環境の教育と交流体験について質問願います。

○6番（大沼大名君） 児童生徒に対する自然環境の教育と交流体験について伺います。

現在、町内の各小中学校では各学校の特色をいかしながら、栽培体験や校外学習などに取り組んでいます。子供たちの成長を考えたとき、豊かな山と川、海を結びつけた自然環境の教育や他地域の子供たちとの交流体験はとっても大切なものと考えています。そこで、次の点について伺います。

他市町との小中学校との交流実績はどのようになっていますか。

2点目、今後県内外の学校との交流の在り方や取組についての検討する考えについてお伺いします。

○議長（眞壁範幸君） 教育長。

○教育長（相原稔彦君） 6番大沼大名議員の質問にお答えいたします。

1点目の他市町村の小中学校との交流実績はどの質問であります。現在、他市町村の小中学校と野外活動を中心とした交流活動は行っておりませんが、平成元年頃まで青根分校の子供たちが夏と冬に石巻市にあった小竹浜小学校と交流活動を行っていました。また、東日本大震災の前まで生涯学習課の事業として、山元町と川崎町の小学5、6年生が夏休みを利用して2泊3日の野外活動を行っていたこともあります。

2点目の今後、県内外の学校との交流の在り方や取組について検討する考えはについてであります。自然体験活動や集団宿泊体験、職場体験活動、奉仕体験活動、文化体験活動といった様々な体験活動を行うことは、生命や自然を大切に作る心や他を思いやる優しさ、社会性、規範意識などを育てるために大変有効であるとされています。

町内の小中学校でも多様な体験活動を行っていますが、教室での授業も含めて1年間の学びの時間数には限りがあり、現在の教育活動で時間的に手一杯なことから、学校において新たな交流活動を取り入れることは難しいと捉えています。

また、夏休みに生涯学習課事業やB&G海洋センター事業として、町内小学生を対象に野外活動を中心とした体験活動を実施していますが、コロナ禍ということもあり宿泊を控え、通いでの活動としています。現時点では、今行っている活動の充実を第一と考えております。

○議長（眞壁範幸君） 再質問の場合、挙手願います。大沼大名君。

○6番（大沼大名君） 以前、今、報告がありましたように、青根分校と石巻にあった小学校との交流活動とか、震災前は山元町との交流とかいろいろあったようですけども、そういった交流の中で課題と言うんでしょうか、いろんな父兄の意見もあるんでしょうけれども、そういった課題等がもし出ていたのであればお教えいただきたいと思います。

○議長（眞壁範幸君） 教育長。

○教育長（相原稔彦君） まず、自然体験活動を含め様々な活動をやる時には、それなりの準備が要ります。昨日行われた支倉常長まつりにおいても、当日あれだけの大勢の人たちに喜んでもらうのに、役場職員をはじめ地域の皆様が事前からかなりの準備をしまっていました。そしてお祭りが終わった後もここにいらっしゃいます。場議員を含め建設組合の方々もいらっしゃってあつという間に片づけが終わりましたが、事前の準備にかなりの時間を要するというのは学校でも同じでございます。正直、教員として勤務しておりましたときに行事が続きますと、それは運動会のようなものであれ文化的な学習発表会のものであれ、あるいはこういった宿泊行事であれ、授業の合間に準備をしているというのが学校の実態でございます。正直、教員の間からは授業よりも何だか行事のほうに力がいって授業に子供たちも身が入らないなとそういう声も聞かれてい

たのも実態であります。そして、特に町内の小中学校は一学年1クラス、川崎中学校だけが今3年生1年生が2クラスになっておりますが、一学年1クラスですと、1人の教員が一学年の行事の準備を全て賄わなければならない、複数の学級であれば手分けをしているんな分担をということもありますが、かなりの負担を強いながら、現在も様々な行事をやっているというのが課題で、これは宿泊的な行事に限らず一番大きいのかなと思います。

それからもう一つ、生涯学習課が主体となって行事を組んでいったときにどうだと言いますと、先ほど申し上げたとおり、今回の場合は地域振興課の職員がもう何か月も前から準備をしてきた、そのように専任の職員を置かなければこういった事業はやっていけないだろうなというのが実感しているところでございます。ただ、今回の支倉常長まつりの中で、ジュニアリーダーの子供たちが8名ほど出ておまして、いろんな活躍をしておりました。後片付けも時間になったからいいですよという話しの中で、最後までやりますという声も聞かれました。ですから、もし教育委員会生涯学習課のような事業の中で、子供たちが主体となって予算集めから企画からある程度の時間をかけてやれるのであれば、そういう事業の後押しは可能なのかな、現在では正直手一杯というところでございます。

○議長（眞壁範幸君） 大沼大名君。

○6番（大沼大名君） 今、教育長から人員的にもなかなかいろんな新たな取組は難しいというような状況をお伺いしましたが、やはり子供たちに聞くと、学校の授業そのものの楽しさよりも本当にイベントの思い出のほうが多く残っているようなことを子供たちは言うんです。授業でいろいろな基礎を学ぶからそういったものごとを受け止めるように成長していると思うんですけども、やはりそうした中でも、例えばウイズコロナあるいはアフターコロナを考えても、時代に即した交流の在り方を模索していかなくてはいけないと思うんです。極端な話、今IT授業などもやっていますので、他校とのそういった交流の準備を、変な話、教員の研修会の中で、例えば仙南地区のどこかの小学校の先生と一緒に隣に座ったと、では先生のクラスとやりましょうと、そういった呼び掛けでも、ほんの二、三十分でもいいと思うんです。いろんな授業の中でやっていかなくてはいけないので。でもそういったちょっとした交流もインターネットを通じてできる時代ですので、そういった考えは持っていないのでしょうか、教育長にお伺いします。

○議長（眞壁範幸君） 教育長。

○教育長（相原稔彦君） お答えいたします。

大沼大名議員から最新の技術を使った交流の在り方ということですが、実は昨年度富岡中学校におきまして、岩沼市の小中学生が岩沼市民会館に集まりまして開催いたしました、いじめ防止

のフォーラムにオンラインで参加をしております。いろんな人間的に職員同士の交流がある中から私どもの中学生もぜひ参加させてもらえないかということで承諾を得まして、画面越しに他校の子供たちがステージ上で堂々と発表する姿を見て、富岡中学校の子供たちはすごいなと言うとともに、自分たちもあのような意識を持たなくてはならないなというふうに感想を語っていたと報告を受けました。

また、これも富岡中学校ですけども、以前富岡中学校に勤務しておった校長が現在スペインの日本人学校に勤務をしております、ぜひ機会をつくってスペインにしている日本人学校の子供たちと交流なんかできないかねという青写真を持っております。今年度中にできるかどうか分かりませんが、やっぱり最新のICT技術を使った活動を学校も教員も子供たちもできることをやってみたいなという夢はたくさん抱いてございます。

○議長（眞壁範幸君） 大沼大名君。

○6番（大沼大名君） 特に夏休みでは、生涯学習課が中心となった取組になっているようです。冬場もそうなんでしょうけれども、非常に生涯学習課の職員の皆さんの援助というのが必要だと思うんですけども、生涯学習課で交流している上での大きな課題というのはどのようなものになっていますか、お伺いします。

○議長（眞壁範幸君） 生涯学習課長。

○生涯学習課長（小原邦明君） 生涯学習課の事業で行っている夏休み期間中の行事なんですけれども、そちらの課題はあるのかとのご質問ですが、小学生のサマーキャンプを2泊3日でこれまで行っておりました。コロナ禍になってからは、2日間を通いで健康福祉センターの多目的広場を会場に行っております。先ほど教育長も申し上げましたが、ジュニアリーダーの支援を頂いて、小学生の指導やレクリエーションの取組方をやって進めております。課題としましては、水辺、川での遊びなどをしますので、こちらの安全確保、そちらのほうの課題がありますので、海洋センターの職員も専門的な知識を持って取り組んでいるところです。以上です。

○議長（眞壁範幸君） 大沼大名君。

○6番（大沼大名君） 子供たちの交流を考えたとき、やはり人間的、時間的、予算的といろいろな課題があるようなんですけども、小中学生の学びやあるいは楽しさ、豊かな心を築くような社会性を育むためには、県内外との自然との触れ合いや文化との触れ合いあるいは風土、そういったものと触れ合う機会を少しでも多くしていくことがいろいろ難しい中でも大切なんじゃないかと考えます。町長として、予算的な手当をしながらウイズコロナあるいはアフターコロナにおける小学生の育成について取り組む必要があると考えますが、どのようにお考えになっていますか。

か、お伺いします。

○議長（眞壁範幸君） 町長。

○町長（小山修作君） 大沼議員さんのご質問にお答えします。

かつて、昭光議員さんが町長の時代に山元町の子供たちと交流をされたということで、画期的な事業だったと思っています。今教育長が言ったように、今の子供たちはITの授業とか英会話もしなければならない、休みもある意味増えて、先生方の負担も大きくなっている、そういった中でそういう交流事業ができるのかと言うとなかなか難しいところもあると思います。今、大名議員さんがおっしゃったように、子供にとっては勉強よりもイベントとか体験の方が印象に残っているわけですから、英会話やITのストレスは大きいと思うので、その分、自然に触れ合ったり交流したりする意味は大きいのは分かるんですけども現場の負担も大きいものですから、逆に言えば自然に地元で触れ合えるBGの職員や生涯学習課の職員、ジュニアリーダーを巻き込んだ地元の川遊びや登山や地元でできる自然との触れ合いなどでやっていくのが、今のところはベストなのかなと思っています。予算的などころは議会の皆さんとお金は捻出できても、やはり時間と人を確保するのがなかなか難しい時代になっていますから、今地域でやれる活動の中で体験していただく、神崎議員が川崎中学校の子供たちと対話をしているようなそういった地道な活動の中で体験をしてくださることを、私としては今ベストかなと思っています。

○議長（眞壁範幸君） これで大沼大名君の一般質問を終わります。

暫時休憩いたします。再開は11時10分とします。

午前10時56分 休憩

午前11時10分 再開

○議長（眞壁範幸君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

通告第6号、4番高橋義則君。

【4番 高橋義則君 登壇】

○議長（眞壁範幸君） 初めに、伊勢原住宅跡地の活用について質問願います。

○4番（高橋義則君） 議長より発言の許可を得ましたので、通告に従い質問いたします。4番日本共産党高橋義則です。よろしく願いいたします。

初めに、伊勢原住宅の活用について質問いたします。

現在、町営住宅の建て替え事業が進んでいますが、中原住宅の建築とともに伊勢原に住んでいる方々が引っ越しされることとなります。今後の伊勢原住宅地の活用について具体的な案が示さ

れていない状況です。

当町は第6次川崎町長期総合計画にもありますように、西暦2030年、あと8年後は人口7,500人と設定しております。川崎広報3月31日現在8,330人住んでいて、8年後には830人が減少することとなります。当町が抱えている人口減少という大きな課題に対して、子育て支援をはじめ、空き家バンクを活用した移住定住策を始めており、成果が表れていると思っております。その事業とともにこの跡地を移住される方や町内で新築される方の住宅用地として有効活用することが必要と考えますが、今後の計画についてお伺いいたします。

○議長（眞壁範幸君） 町長。

【町長 小山修作君 登壇】

○町長（小山修作君） 4番高橋義則議員の質問にお答えします。

伊勢原住宅跡地の活用についての質問であります。現在伊勢原住宅に入居している方々の建て替え事業として中原住宅を建築しております。昨年度、入居者に対し移転の意向調査を実施したところ、中原住宅への移転希望が9世帯、北原住宅へ2世帯、4世帯が一般住宅への移転となっており、予定では令和7年度までに中原住宅の建築移転が完了予定で、空き家となった住宅の解体は令和8年度以降となる見込みであります。

当初、計画では伊勢原住宅入居者約半分の建て替え住宅として、伊勢原住宅敷地内にも建築する予定でありましたが、移転者の減少によりまして建て替え戸数が大幅に減少したことから、現在、伊勢原住宅敷地内の町営住宅の建築は白紙の状況です。

伊勢原住宅跡地の土地利用につきましては、今後、中原住宅への移転事業を進めながら町有地として有効活用を図るために移住定住の住宅用地なども視野に入れ、議員の皆様からのご意見を頂戴しながら検討していきたいと考えております。

○議長（眞壁範幸君） 再質問の場合、挙手願います。高橋義則君。

○4番（高橋義則君） この場所は小学校中学校にも近く、近くにスーパーもあります。まして役場にもとても近い場所にありまして、住宅地としてはかなり立地条件がいいと思っております。この住宅地を利用しまして、先ほど質問にあったように新規に入ってくるような人たちを迎えるための住宅地としてぜひ造成するべきと思いますが、この件についてお伺いしたいと思います。

○議長（眞壁範幸君） 建設水道課長。

○建設水道課長（阿部大樹君） ただいまの高橋議員の質問にお答えしたいと思います。

住宅地として造成というお話でございました。先ほど町長が答弁したとおり、現在伊勢原住宅

への町営住宅としての建て替えは白紙の状態でございます。今後、伊勢原住宅敷地は立地条件がいいので一般住宅の造成ということなのですが、まず、町有地を管理しています総務課、移住定住関係の地域振興課等と各課と協議をしながら、今後町有地としての有効活用を図るように計画していくようにはなるのですが、伊勢原住宅約8,600平米でございます、敷地面積。その敷地の造成工事を行いますと約1億5,000万円ほど造成費用がかかると見込んでおります。なお、その1億5,000万円の資金調達、それに関しまして、建て替えによる敷地造成でございますと国の補助が受けられるんですが、一般住宅用地にその補助金を投入できるかどうかということもいろいろ問題がございますので、そちらのほうも慎重に確認しながら検討していきたいと考えております。以上でございます。

○議長（眞壁範幸君） 高橋義則君。

○4番（高橋義則君） 今の回答の中に、造成するのにも結構お金がかかって、補助事業もそういうのに使えるのかどうか分からない中で、それはなかなか難しいという回答でした。予算の中で、今回新築住宅取得資金1世帯30万円を出すというものや、企業支援事業の移住支援金100万円などということも含めると、移住してくる人たちにとっては場所もよし手当もあるからいいという思いで川崎町の今の伊勢原住宅に住居を求めやすくなると思います。宅地造成にお金がかかってなかなか前に進めない状態もあるんですが、それを踏まえても、人口を一人でも多く川崎町に来てもらうような政策をいち早くこの造成でやってほしいと思いますが、いかがですか。

○議長（眞壁範幸君） 町長。

○町長（小山修作君） 高橋議員の質問にお答えします。

いろんな助成制度はあるけれども、まず造成されている土地が必要なんだ、当然であります。それをやはり我々が造成して、そこにある程度の価格を抑えた土地を皆さんに供給すべきなのか、それとも今川崎町に来る人たちはどちらかというところと少し自然があったところに来ようとしているのか、また、例えば学校の統廃合も含めて学校が古くなっていますから、あそこに学校を建てるべきなのか、様々な意見を頂戴していることも事実です。皆さんとともにしっかりと考えて、今川崎町が何をやるべきなのか、本当に高橋議員さんがおっしゃるように人を受け入れられる、人が入ってきやすい状況をつくるのも大切ですから、議会の皆さんと相談して、その時は造成費用が幾らかかってもそれに後から効果が出てくだろうと判断すれば、その事業に入っていきますし、いろんな人が来始めてはいますが、私としてはどちらかというところとちょっと町場から離れて隣近所に自然があるようなところに入ってきたいんだという人が多いような感じもしますので、いずれにしてもその造成をして人を呼び込むというのも一つの案でございますから、皆さんとこれ

から伊勢原住宅の跡地をどうやっていくか検討していきたいと思います。

○議長（眞壁範幸君） 次に、通学路の安全対策について質問願います。

○4番（高橋義則君） それでは、2問目の通学路の安全対策について質問いたします。

県道蔵王川崎線北川橋を渡り、川崎中学校に行くには県道を横断しなくてはなりません。この場所は緩いカーブになっており、生徒が横断するとき危険であるという声も中学生の親からお話がありました。近くに横断歩道がありますが、通学路の場所とはかけ離れて、生徒が安全に通行するためにも何らかの対策が必要と思います。

生徒の通学路の安全対策について、どのように考えているのかお伺いいたします。

○議長（眞壁範幸君） 教育長。

○教育長（相原稔彦君） 4番高橋義則議員の質問にお答えいたします。

通学路の安全対策についてどのように考えているかとの質問であります。議員ご指摘の場所は町民バス川崎中学校前のバス停付近と捉えています。川崎中学校に確認したところ、生徒数名がこのバス停で降車し登校しています。

現在、関係機関にこの状況を伝え、横断歩道の新設の可能性について相談していますが、町民バス停から川崎小学校方面に五、六十メートル歩いたやや見通しのよい場所に横断歩道があり、ご指摘の場所に新設することは現実的には難しいのではないかと感触を得ています。また、バス停近くに横断歩道を設けることは、停車しているバスの直前直後の横断に結びつき、危険性もあるとの指摘も受けました。

これらのことを踏まえ、川崎中学校と情報を共有し安全性確保の観点から、生徒たちにはバス停の南側にある横断歩道を利用するよう働きかけてもらっているところです。

○議長（眞壁範幸君） 再質問の場合、挙手願います。高橋義則君。

○4番（高橋義則君） 私もこのバス停の前で通学している生徒たちを見ておりましたら、たまたまその日は1人しかバスから降りなくて、そこを横断する姿を見たんですけども、バスが通り過ぎた後、そのバス停の場所から中学校のほうに横断しておりました。そのときは車が来なかったので安全に通ることができたんですけども、今、この回答書にあったちょっと離れた横断歩道があってそこを通行したらいいんじゃないかという回答でしたけれども、わざわざ遠くに行って中学校に行くというのは生徒にとっては何かと不便だと思います。あそこのバス停から五、六十メートルくらい離れているんでしょうか、そこに横断歩道があるのは私は逆にこの横断歩道は何であるんだろうと不思議なくらいに思っております。小学校の生徒が多分あそこを横断するためのものかとは思いますが、中学校の生徒にとっては全然かけ離れた場所になってお

ります。逆に言えば、あの横断歩道を見直して中学校のところに横断歩道をつくるべきではないかと思いますが、どのようにお考えでしょうか。

○議長（眞壁範幸君） 町長。

○町長（小山修作君） 私も現場に行って見たんですけれども、やはり、あそこに今ある五、六十メートル南の横断歩道が一番高いと言いますか、下り始めるところです。その前に川崎小学校のほうに2箇所横断歩道があつてその横断歩道になります。そこから下りますと、今、高橋議員がおっしゃっているところになるんですけれども、あそこにバス停があつて横断歩道があると、いろんな情報が集まって、運転する人、歩く人、みんなが多分混乱しやすいんだという判断の下にあそこに横断歩道が私はできたんだと思うんです。ですから、この議場でいろいろと意見交換をさせてもらうよりも、やっぱり関係者の人とあそこで横断歩道を移すことができるんだろうか、そういったことも含めて意見交換をしたほうが適切ではないかと思っています。あそこに横断歩道があつてまた下につくるということは無理なので、とにかく現場で関係する人達と意見交換して、そこで感じていただくというのが今のところベストだと思っております。

○議長（眞壁範幸君） これで高橋義則君の一般質問を終わります。

散会の宣告

○議長（眞壁範幸君） 以上で本日の日程は全部終了しました。

本日はこれで散会します。

大変お疲れさまでした。

午前11時27分 散 会

上記会議の経過は事務局長佐藤文典が調製し、書記佐藤由弥歌が記載したものであるが、その内容に相違ないことを証するためここに署名する。

議 長

署 名 議 員

署 名 議 員